

社会は、地理・歴史・公民分野の各大問から構成されています。また、論述問題(文章で説明を求める問題)を出題しており、部分点を設けています。

今回は、理科とあわせて40分で実施しましたが、実際の入学試験は、理科・社会2教科あわせて60分間でおこないます。入学試験模擬問題と難易度や傾向は同じですが、問題数は25問から30問程度、配点は1問あたり2点から4点程度としています。

出題の傾向や形式は、これまでの入学試験問題を踏襲して、地理・歴史・公民の3分野から出題し、洗足学園中学校での学習の前提となる基礎力を身につけているか、という観点で出題しています。

1 地理分野からの出題です。

問1 神通川は、富山県中央部を北へ流れ、富山湾に注いでいる河川です。正解は**B**です。

問2 **X**は栃木・福岡県から「いちご」、**Y**は熊本・千葉県から「すいか」、**Z**は高知県から「なす」、と判断できます。正解は**A**です。

問3 「水俣」が正解です。正しい漢字での解答のみ正解とします。

実際の入試問題では、漢字指定の問題なのか、ひらがなでの解答でもよいのか、問題文をしっかりと読んで解答してください。漢字での解答を指定されていない問題でも、あきらかな漢字の間違ひは不正解とします。

問4 (1) 新潟市は、日本海側に位置するため、季節風の影響によって雪が多く降ります。冬の降水量が多くなっている、**C**が正解です。

雨温図の問題は、ほぼ毎年出題しておりますので注意が必要です。各地域の気候上の特徴を、雨温図から読み取れるようにしておきましょう。

(2) **A**の輪島塗は石川県、**B**の越前和紙は福井県、**C**の益子焼は栃木県、の伝統的工芸品です。正解は**D**です。

問5 「開発をおこなう前に、その開発が環境におよぼす影響を調査、予測、評価すること。」といった内容の文章であれば正解とします。

地理分野では、統計資料などを活用した問題を出題する場合があります。統計資料を「暗記」するのではなく、なぜそのような順位になるのか、なぜ変化したのか、といった疑問を常にもちつつ、学習を進めてください。また、統計についての細かい知識を要求しているわけではありません。都道府県や地域ごとの産業などの特徴をおさえれば、統計の細かい部分が分からなくても答えを導き出せます。

2 歴史分野からの出題です。

問1 正解はBです。「奈良時代に」という部分が誤りです。

問2 Aは江戸時代、Dは弥生時代について述べた文です。また、Bは「二期作」という部分が誤りです。正解はCです。

問3 この時期に広がっていったとされる「村」は、「惣」または「惣村」とよばれています。正解はCです。

問4 天明年間に冷害から始まった飢饉は、浅間山の噴火を経て、大飢饉となりました。正解はAです。

問5 「ある事件」とは、米騒動を示しています。米価が上昇していたところに、シベリア出兵を予測した米の買い占めが横行したため、さらに米価が急騰し、米騒動が発生しました。正解はAです。

問6 「農地改革」が正解です。正しい漢字での解答のみ正解とします。

3 公民分野からの出題です。

問1 「EU」が正解です。「EU」はヨーロッパ連合の略称です。

問2 正解はDです。「税率が8%となった」という部分が誤りです。「消費税」は、平成9年に3%から5%に引き上げられました。

問3 「公衆衛生」が正解です。正しい漢字での解答のみ正解とします。

問4 正解はDです。近年では、イギリスのメイ、ドイツのメルケル、大韓民国の朴槿恵などが就任しました。

問5 (1) 正解はAです。政令の制定は、内閣の仕事です。

(2) 正解はCです。地方自治体の住民が行使できる直接請求権の内容は、条例の制定・改廃の請求、監査の請求、議会の解散の請求、首長・議員の解職請求です。「地方裁判所の裁判官」は、最高裁判所が作成した名簿によって、内閣が任命します。

受験勉強の際には、「なぜ、そうなるのか」という問題意識をもちながら学習してほしいと思います。また、1～2行の文章で答える論述問題は、各分野1問程度出題しています。部分点を設けているものもありますので、最後まであきらめずに解答してください。また、使用する語句が指定されている場合は、その語句をヒントに解答文を考えてみてください。